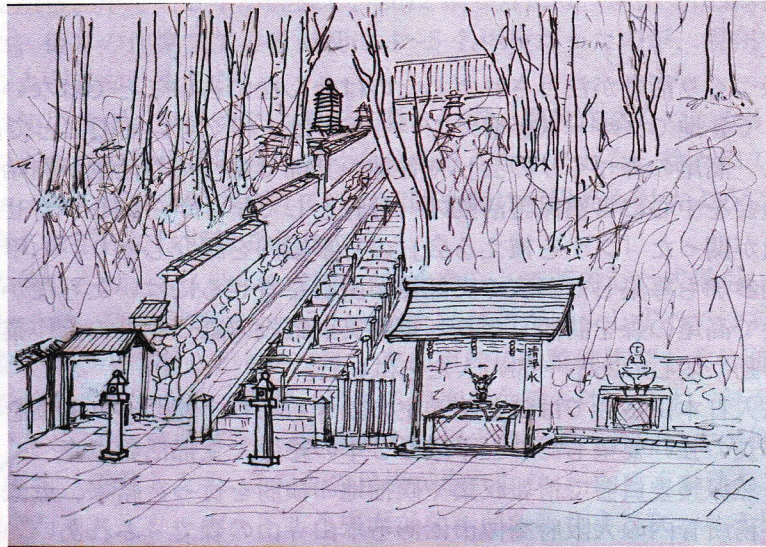


あかがし

本山寺山森林づくりの会会報（創刊号）



発刊のご挨拶

本山寺山森林づくりの会会長 金井良碩

当会は、約2年間の準備期間を経て、平成24年6月に日本山岳会関西支部自然保護委員を中心として発足しました。そして、今日まで近畿中国森林管理局長との協定に基づき、高槻市本山寺山国有林「社会貢献の森」49.11ヘクタールにおいて、月1回のペースで森林づくり活動を行ってきました。

いまでは、植生の専門家、大阪府山岳連盟などの山岳界関係者、「高尾の森」などの森づくりの経験者をはじめ多数のかたがたの参画を得て、37名の会員（うち、日本山岳会関西支部会員21名）を有する組織に成長しました。参加者募集に尽力された事務局の皆様、快く参加いただいた会員の皆様に厚くお礼申し上げるしだいです。また、平成25年3月には、本会が主管して「第7回日本山岳会森づくり連絡協議会」を高槻市の「高槻市森林観光センター」で開催し、全国から40名の参加者が集い、活発な意見交換がなされたところです。そんな中、会員間の現場以外での交流も深まり、総会や理事会など事務的な行事以外にも「納涼懇親会」なる親睦会が開催され、森づくりの楽しさや苦労話などの話題で盛り上がるとともに「会報」発刊の気運が高まって、今回の発刊に結びついたものです。また、年末12月の作業日には、今年予定していた仕上げの間伐を終了したことから、高槻市の名湯「美人の湯」に浸かって汗を流しました。その温泉の食堂の片隅で、この一年の納会が開催され、会報にも話が弾みました。単に「会報」では愛想ないのでタイトルを決めたらどうかとの提案があり、この地に育つ「アカガシ」が冷温帯樹林の特徴を有し、また、古墳から出土した修羅（重い石材などを運ぶ木製ソリ）にも使われたように国産材の中でももっとも硬くて強く、粘り気がある木材だと言われていることからタイトルにふさわしいと意見が一致して「あかがし」に決定しました。

今後とも、幅広い分野からの参加による会員の充実、森林ボランティア活動者養成、必要資機材の調達、本会活動の広報と活動支援要請など、山積する課題の克服のため、会員各位の更なるご尽力をお願いいたします。当会の活動は公益社団法人日本山岳会関西支部事業の一環であるとともに、林野庁森林管理局事業の一翼を担う公益性の高い事業を実施する団体と位置づけられます。今後は、本会の会報により、会員間の情報交換のみならず、当会活動をより広く世の中に知らしめる役割を担い、間伐などによる森林保全、植生や獣害調査による森林環境の整備を推進し、生物多様性への対応、更には地球温暖化防止に貢献してまいりたいと存じます。

「本山寺山森林づくりの会」ができるまで

本山寺山森林づくりの会事務局長 斧田一陽

本山寺山森林づくりの会は平成 24 年 6 月 17 日に発足したが、その誕生までの概要を簡単に記しておきます。

里山を中心に森づくり活動が注目されだしたのはそんなに古いことではない。森づくりそのものを活動目的として各地でグループが増えていったのは十年ぐらい前のことである。

日本山岳会でも「高尾の森づくりの会」や各地の支部で森づくり活動が開始された。関西支部では自然保護委員会を中心に自然保護活動の一分野として早くから関心が寄せられていた。その発足に関西支部員が関った「ブナを植える会」の行事案内を紹介したり、六甲の鶴甲での「HAT-Jの森」活動参加も募集したが広く支部員が関心を寄せるにはいたらなかった。日本山岳会自然保護全国集会で高尾の森を訪問したり、東海支部猿投の森づくりの会作業講習会に参加するなど、森づくり活動に関心のある一部の人はいた。

その後、社団法人日本山岳会では公益法人化の動きもあり、森づくり活動を推進する動きが強まった。重廣支部長の強い要望もあり、平成 22 年の総会で支部活動に森づくりを取り入れることが決まった。自然保護委員会で情報収集や候補地の検討を行った結果、近畿中国森林管理局京都大阪森林管理事務所管内の大阪府高槻市にある本山寺山の森で「ふれあいの森」活動を目指すことが支部委員会で承認された。秋から冬にかけて現地説明を受け、下見や調査を経て入林許可による活動を開始し、全体計画の作成調査を実施した。

平成 23 年 5 月には体験林業の承認を受け、活動希望の支部員と一般公募のメンバーが共に林内整備、選木や間伐作業、植生調査を行った。平成 24 年 5 月 18 日には「社会貢献の森における森林整備等の活動に関する協定書」を締結し、「日本山岳会関西支部本山寺山の森」と名づけたフィールドで活動することとなった。その活動主体は以前から活動していたメンバーを中心に「本山寺山森林づくりの会」を結成することとなった。

会名の一部を「森づくり」とせず「森林づくり」としたのは一部区域に深山幽谷の趣を残す大阪府下では希少な「モミ」、「ツガ」、「アカガシ」などの冷温帯樹林がある森林を守り育てて生物多様性豊かな森林として、後世に残す活動を目指していることを付け加えておきます。



平成 24 年度活動記録

実施日	参加数、実施内容等
平成 24 年 5 月 18 日	近畿中国森林管理局長と「社会貢献の森における森林整備等の活動に関する協定書」を公益社団法人日本山岳会関西支部長とで締結
6 月 17 日	参加者 8 名 間伐、歩道整備 本山寺「可笑院」において「本山寺山森林づくりの会」発足総会開催
8 月 19 日	参加者 9 名 間伐、歩道整備
9 月 6 日	参加者 4 名 間伐、林床整備
10 月 21 日	参加者 4 名 間伐、林床整備
11 月 1 日	参加者 5 名 間伐、林床整備
12 月 16 日	参加者 10 名 間伐、歩道整備、林内見学
1 月 17 日	参加者 5 名 間伐、林床整備
2 月 17 日	参加者 9 名 間伐、歩道整備、鹿被害調査
3 月 7 日	参加者 6 名 間伐
3 月 31 日	参加者 38 名 活動地案内、自然観察、間伐

森づくりの楽しさ(秦 康夫)

2010年10月、京都大阪森林管理事務所の担当官に本山寺山国有林の現作業地を案内してもらい作業を開始してから、早くも3年が経過し、2012年6月には「本山寺山森林づくりの会」が正式に発足しました。毎月の作業参加者も当初は4~5名程度だったのが、現在では毎回10名内外の参加を得られるようになりました。

チェーンソーは使用せず、手ノコによる手作業なので、間伐作業もなかなか予定通りには捗りませんが、それでも東海自然歩道周辺の森は大分明るくなりました。徐々にでも間伐が進んだお陰で、密生したヒノキの植林で閉ざされていた空間も開けて陽光も射すようになり、光を求めている広葉樹の生育も数年先には期待できます。

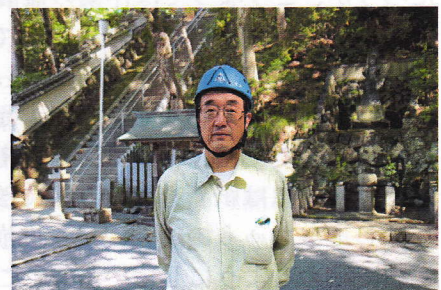
森づくり作業の楽しさは、なんとといっても、汗水たらして苦労した成果が、目に見える形として現れてくることです。薄暗くてうっとうしかった植林帯が、少しずつではありますが明るい森に変身して行く姿を見るのは楽しいものです。登山道周辺の整備作業も大分進みました。

樹木を伐倒するのが主ですから、作業にはある程度の危険を伴います。斜面で伐り倒した木が流れ落ちてきたり、倒そうと思うのと違う方向に木が倒れてきてあわてて避難したり、急斜面の足場が崩れたり、斜面の石が落ちてきて当たったり、ヒヤリ、ハットする場面がなんどかありました。カスリ傷、切り傷、打ち身傷等多くの人が経験済みです。せっかくの楽しい森づくりなのにケガをしてはなんにもなりません。安全第一をモットーに、作業前の装備・服装の点検、上下作業・接近作業の禁止等基本ルールの徹底を怠らず、スローペースではあるけれど「安全で楽しい森づくり」を皆さんとともにこれからも進めて行きたいと思います。



「ご苦勞様からありがとう」へ(宮本 廣)

日本山岳会関西支部の森づくりの会活動には2013年1月から参加している新人です。若いころから山が好きで国内・海外の山に登ってきました。若い頃から暇を見つけて山頂を目指して歩いたものでした。退職後、いつでも山にいけるサンデー毎日状況になると、体力的な面もありますが、未踏峰の山に登るといふ欲求は希薄になり、むしろ、近隣の山の自然に同化したいという気持ちがだんだん強くなってきました。



府岳連の薦田さんご紹介で入会する機会を得ました。入会時出合った事務局長の斧田さんは20数年前に府岳連の冬山登山講習で指導を受け、当時は大変お世話になった方でした。

この活動に参加して、最初は単に木を切る事など簡単なことと思っていましたが、森林保全活動はなかなか奥深いものがありました。通常の登山でめったに踏み入れることがないブッシュや崖には多くの生物が生息しており、斜面にへばりついて生えている樹木の頑固までの生命力がある一方、体系が崩れたときの枯れていく森の危うさを目の当りにする時、森の自然は人知を超えたものがあると実感しました。

この活動を通じて得たものは多く、伐採をするための知識や技術を習得することだけでなく、森林伐採を通じて、明るい生物多様性の森づくりの必要性が痛感できたこと、一日中森の中にいて夢中になって作業をすることの充実感を体験することができました。

この活動では、機械を使わずに、手鋸をもって30代から80代の人々が参加しており、みんなが無理をせず各人の力量に応じて作業し、チームワークの重要性がより求められます。その過程で連帯感・責任感が醸成されると思います。

森林浴を浴びながら昼ごはんの「高槻名物ろまん巻きすし」のうまいこと、作業後、サイゼリアでの総括会議、また、家に帰って夢中になって作業をしていたので気づかなかった擦り傷・打ち身さすり、風呂に入りながら充実感を満喫することなどおまけもあり、挙げればいくらかもあるという楽しい活動で山に行く日が楽しみになりました。毎回、擦り傷や打撲傷などを作りながらもひたすら作業を楽しんでいます。

3月に高槻で全国の交流会が開催され参加しました。その中で東京の高尾、愛知県の猿投、京都の大文字山の活動をはじめ20箇所地域で行われている森づくりの会の創意工夫のあるとくみを知ることができました。

多くの人が全国で参加していることを知り、大阪でもやっていかねばならないという元気が沸いてきました。

作業をしていて、通りかかるハイカーさんに活動の内容をよく聞かれます。説明をすれば「ご苦労さま」とよく云われますが、最近、違和感を感じるようになりました。考えてみると森づくりは人のためにやっているのではなく、活動を通じて自分が多くのものを得ています。そう考えると、少しも「ご苦労さま」なことではなく、むしろ森にありがとうという気持ちを感じるようになりました。わたしとしては体が続けばあと20年はやりたいなと思っています。今後、より多くの人に体験していただき、「ありがとう」と思う活動にしていきたいと思っています。

私と森林づくりの会 (武田 壽夫)

斧田さんのお誘いで当会に参加して一年半、伐採・伐倒を筆頭に毎月の気の張る力仕事である。山岳会ベテランの方々にご一緒させて頂き、いつも充実した思いで作業を終えている。

何せ、手入れされなくなって久しい杉、檜の密生で、徒長が目立つ林である。

世が世なら間伐、枝打ちもされ、建材として役立つことだろうが、こうなっては作業の難儀さは言を俟たず、その苦勞と楽しさは諸先輩が縷々書いておられる通りなので省くこととし、ここでは小生が経験した『ヒヤリ・ハット』を紹介して皆さんの参考に供したい。

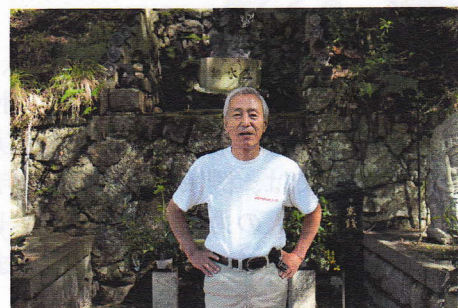
それは参加して間なしの事で、足を滑らした弾みに鋸の刃を近くの某氏のシャツにひっかけてしまったのである。後日伺えば下着まで破れていたとのことで、一つ間違えれば怪我に至る処だった。某氏には紙面をお借りして改めてお詫び申し上げたい。何せ急傾斜地で四つ足でのよじ登りはしょっちゅうのこと、足下は崩れ易い。何かの弾みで怪我に繋がり兼ねない。以来、鋸は必ず鞘に納めるようにしているし、この『ヒヤリ・ハット』を教訓に、よろず安全への戒めとしている。

ヘルメット、作業手袋、伐倒方向の確認、落石は勿論、上下左右の安全確保、通りかかる登山者への注意喚起と、要注意事項は枚挙にいとまはない。この上とも安全作業の基本を肝に銘じ、こうして気持ちの良い、樹種豊かな森の再生に、多少なりともお役に立てればこの上ない幸せと思っている処です。



森づくりに参加して(倉谷 邦雄)

今年の5月から参加しています。宮本さんから誘われて、初めて参加したときは、緊張感も手伝って午前中の作業だけでバテバテ、水を飲みすぎて昼食も十分とれず、相当にきつい活動だなという印象でした。急な斜面を上り下りしながら、山の中の立木を伐るなどということは無論初めての経験で、そのうえ枝を払い、玉切りにすることがこれほ



どしどし作業とは思ってもよかったです。チェーンソーを使えばもっと楽に、早く作業ができるのですが、仲間とワイワイ言いながら、交代しながら木を切るおもしろさは味わえないように思います。たとえば、伐倒方向を定め、「受け口」をつくって「追い口」から伐るという理に適った方法に感心しましたが、こういうやりかたを覚えられなくなります。また、「林床整備」の大事なことを斧田さんから教わりました。これまで手入れの行き届いている森や林を偶然見たことが何回かありますが、林業として実施しているのだろう、ぐらいにしか見ていませんでした。これまで山歩きしながらも山を大事にするという気持ちが薄かったように思います。これからはおそらく何回か参加するうちに身体も慣れてきて、「森づくり」のポイントや楽しさがわかってくるのではないかと考えています。

私は今年11月で68歳になります。かつては市職員で、時間的余裕をみつけて山歩きをしていました。しかし退職してからは安逸な生活がたたって足腰が弱り、泊りがけの山歩きは到底無理な感じですが、このような日帰りの活動であれば続けられるような気がしています。今後、間伐作業だけでなく、植生調査や植樹などの活動もあれば参加したいと思っています。

活動したあとの、高槻駅前での「反省会」も楽しみのひとつです。

森づくり活動に参加して(中村 賢三)

本山寺森づくり活動に今年の五月から参加して半年足らずの経験で、無我夢中で参加してきたわけですが、早や反省の感も色濃い思いもあります。

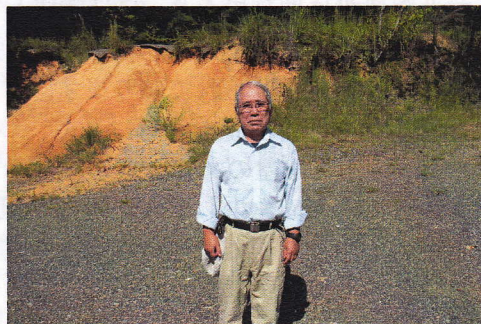
家では、鋸など持った事が無かったので最初は作業はどんなものか、昔の登山用具を出しながらドキドキしながら参加しました。

伐採の作業は平地で木を鋸で切るだけのものではなく、作業するところは、足場が急斜面で悪いところが多く、上り下りを含め足腰の踏ん張りがかなり要求されます。若い頃、山で鍛えた足腰もしばらく山から遠のいていましたので、年齢的なものもあるかもしれませんが体力不足が痛感されます。

しかし、諸先輩の方々の適切な注意・アドバイスを頂き、自分のペースで作業をしてきた結果、けがもなくこれ、作業にも慣れてきました。また、最近、かっこうも様になり、ひたすら動かすだけでなく、すこしコツも覚えるようになり、「マイ鋸」に愛着も感じはじめました。伐採作業を通じて、この作業は、絶対、個人作業では無理で、参加者がチームワークをもって、基本的に忠実にすすめていくことが大変重要なことであると改めて認識しました。伐採作業は簡単なものではありませんが、適切に役割を分担して作業を進めていくと本当に楽しく、時間がたつのが早いことと感じます。

しかし、この活動に参加して、何よりも優れて楽しいことは、話し声が森の中に吸い込まれるような鬱蒼とした木立の中で自然とかかわり、自然に同化していくような体験をすることが出来ることです。これは、わたし達が日常の都市生活で絶対味わうことができない爽快感と思います。また、作業を通じてボランティアのメンバーとコミュニケーションをとることによって、今まで仕事では経験しなかった話が聞けて、その事が非常に新鮮感となって自分の人生に加味していくことです。そして、最後の醍醐味は汗を流した後に、毎回反省会を行い、酌み交わすビールのうまい事、これは余得ですが本当に最高です。

この活動は、私にいろいろなものを与えてくれます。これからも、先輩の方々のアドバイスをどんどんいただき、体力の続く限りやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。



用具小屋建設について(薦田 佳一)

冬の2, 3月は雪のちらつく山林、凜とした冷気の張りつめる檜林、小雪舞う中での間伐作業も意外に楽しい、森からのエネルギーをいっぱい戴いて間伐作業に精を出しています。本山寺山の作業現場は麓の高槻市の原から神峰山寺を経て標高500mほど上がった所で、ポンポン山のハイキング登山道(東海自然歩道)の北東側の国有林です。

森づくりの会の例会は本山寺の手前の駐車場まで車で上がり、その駐車場を基部として、さらに上の本山寺専用駐車場を経て本山寺の境内広場に集合してから現場に向かっています。

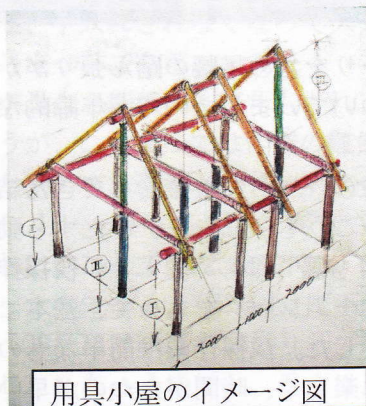
このたび、森林づくりに必要な用具を保管できる用具小屋を作ることになり、間伐区域の伐採が一区切りついてから、小屋の建設に取り掛かる予定です。建設に必要な材木は、すべて間伐作業で出た材木を利用することを基本として取り組むことにしています。

建設計画にあたり、日本山岳会京都滋賀支部の「藤尾の森づくり・里山クラブ」が、京都滋賀県境の藤尾で2~3年前から建設に取り掛かり、ほぼ完成している小屋を、現地見学させていただきました。建設時の苦労話などをお伺いしてかなり勇気づけられています。

見学した京都の小屋を参考にして、「本山寺山森林づくりの会」の用具小屋のイメージを図に示します。建設場所は本山寺の南西面を少し下った所の平坦地を予定し、当面、予定地の地ならし作業と柱材の調達を進めております。



用具小屋の予定地



用具小屋のイメージ図



藤尾の森・里山クラブの小屋

初めての参加(石原 順子)

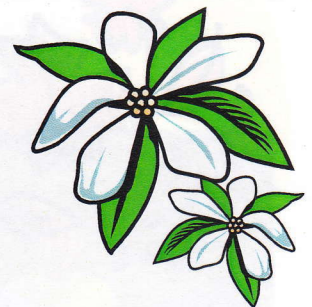
12月15日(日) 曇 最高気温10.4度 最低気温5.8度

「無知な私にもできることがあるのか?」と「どんなことをするのだろうか?」と初参加見学。

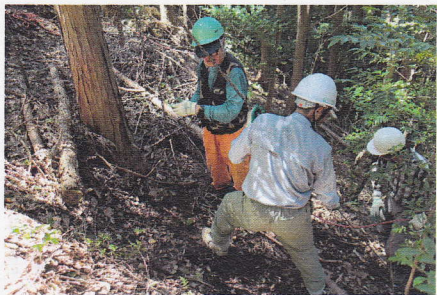
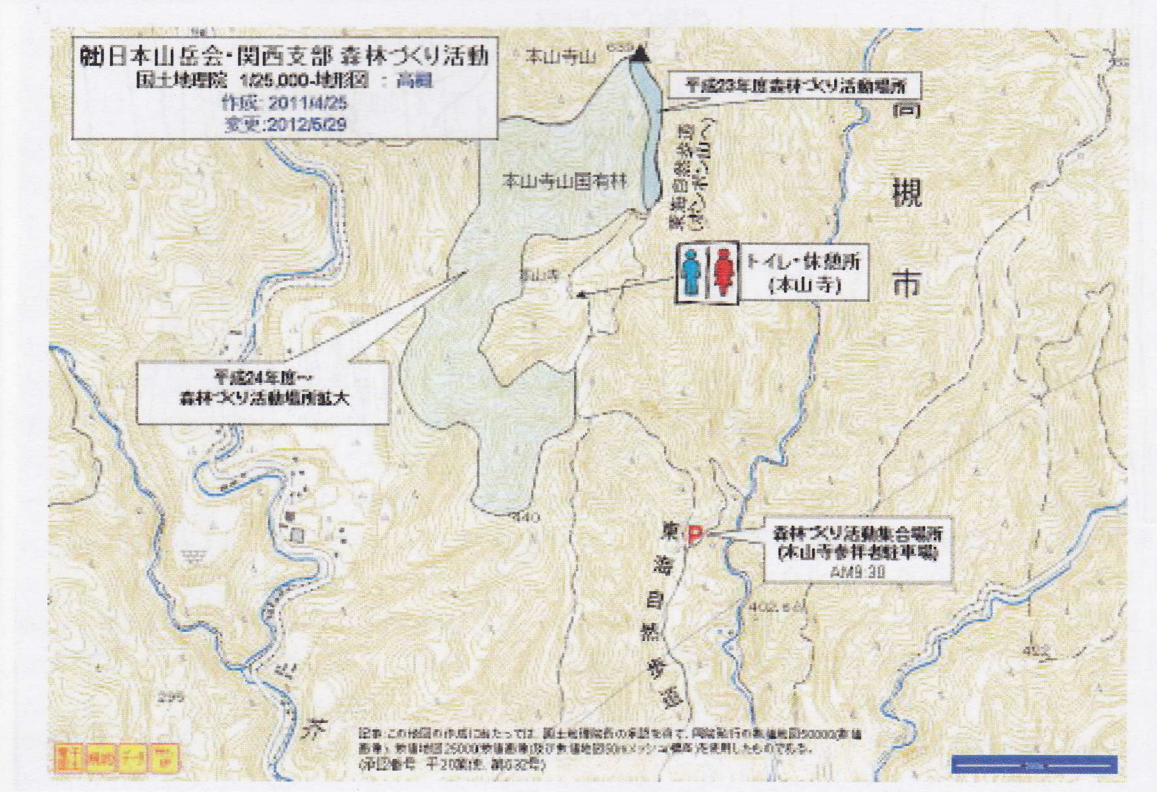
男性方が次々とのござり木々を巧みに伐採。大木が目指す方向へ倒れていく光景は頼もしく、美しく、感動的だ。

私も間伐の木をほんの少し小枝切りをさせてもらった。まっすぐ切っているつもりなのに斜めに切りあとは片方に力が入りすぎのためかと加減してみるが難しい! 急斜面で滑らぬよう注意しながらの作業は登山とまた違った楽しい体験だった!! そして皆さんにご迷惑をおかけしないで一日が終えたことを神に感謝しての帰宅でした。

次回も楽しみたい!!!



活動地域および活動状況





本山寺山森林づくりの会会報「あかがし」創刊号

発行者：本山寺山森林づくりの会 発行日：平成26年3月1日

発行所：公益社団法人日本山岳会関西支部

〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階304号

発行責任者：金井良碩 編集：黒山泰弘 挿絵：薦田佳一 印刷協力：コニカミノルタ㈱

「本山寺山森林づくりの会」事務局連絡所 斧田一陽方 072-633-6556